

水路は用水路ばかりではない

宮田 太田市の南部では利根川は等高線にほぼ沿うような形で東西に流れております。太田では小さな川は利根川に向かって北から流れてきて、途中から斜めに方向を変え利根川に流れ込んでいます。平時はこれらの川は北から南へ流れているわけですが、増水した時にはそれを斜めに向きを変える川の流路が遮ってしまうことになるのです。したがって、利根川に流れ込んでいく水が少なくなる、さらには逆流してしまうこともあるわけです。金山の南西部では水が増水しますと利根川の水が逆流して来ます。したがって、このあたりでは水が無くって米作りが出来ないというよりは、逆に台風の時期や秋雨などの集中豪雨の時期などに排水が出来ない被害が多いのです。太田市よりもさらに東の邑楽郡など低地帯に行くほどそういった被害が出ております。

また、発掘調査でも最近確認されているのですが、低地から低地を結ぶために台地を横断した堀も見つかってきています。あるいは用水のバイパスのようなものも見つかっています。それは何を意味するかというと、いかに排水を早くするかということに重点を置いているという気がしています。

新田堀は用水路の観点で語られる場合が多いのですが、また記録などでも用水の水争いがあるようなのですが、果たしてそれだけなのかというような感じを受けております。会場に米作りをされている方もいらっしゃると思いますが、皆さんの体験から当時どうだったのかという思いを巡らせていただくのもいいのかなと思います。いわゆる用水だけの観点よりも、もしかするとこの地域では排水の問題の方が大きいのではないか、そういったものが発掘調査などで明らかになりつつあると感じているということで問題提起とさせていただきたいと思います。

能登 宮田さん、今までの発掘調査で排水施設のようなもの、あるいは排水対策の痕跡といったようなものが見つかっているのですか。

宮田 たとえば金山の東側に、竜舞の台地や、茂木の台地がありますが、そういうところでは西の低地からより低い東の低地へと台地がくびれて一番細くなっているところをぶち抜いて排水をしているような水路も見つかっています。それから有名な塚廻古墳がある茂木田んぼ、沖田んぼといわれるところですが、あの辺でも排水のために掘られたと思われる溝や堀と考えられる遺構がぼちぼち見つかっているといった状況です。

能登 分かりました。そうすると今まで視点がなかったのが溝が出てきた時はそれはほとんど用水路だと思っていただけでも、そういう視点を向けてみるとその中にも排水路としての機能を持つものがあるのではないかということなのですね。そういう視点で見るとまた新しい地域の歴史が見えてくるのだらうと思います。

さて先程もちょっとお話いたしましたけども、当然この地域の水の問題を語れば、岡登用水の話をした方がいいと思います。笠懸野岩宿文化資料館の國井さんから岡登用水についての説明をいただければと思います。

岡登用水

國井 笠懸町の國井です。岡登用水といいますと、江戸時代の代官岡上景能おかのぼりかげよしが作った用水ということで大変有名です。岡登用水という名前は、実は江戸時代の古文書には一つも出てきません。笠懸野に幕府が造った用水なので「笠懸野御用水」という名前でした。岡登用水という名前は明治初期にこの用水が再興されたときに付けられる名前なんです。

図26は大間々町高津戸のながめ公園の下にある岡上景能が岩盤を掘り割って造った導水路です。岡登用水は景能の死後まもなく使われなくなり、幕末から明治期に再興するのですが、その時にも同じ所から水を引いています。図27は江戸時代の、今から330年前の絵図です。この絵図に表されているの